



1964 年生まれの方々、青春時代に親しんだエンターテインメントは何でしたか？ サザンオールスターズ？機動戦士ガンダム？スターウォーズ？それとも村上春樹？人によって様々でしょうが、どれも懐かしい思い出です。しかし私たちと同じ年の横田めぐみさんは中学1年生だった1977年10月に北朝鮮に拉致されました。めぐみさんは私たちと同じようにあの時代を楽しむことが出来なかったのです。それを想うと胸が痛み、怒りを覚えます。

そして今、1964 年生まれの間はめぐみさんのご両親の当時の年齢になり、めぐみさんと同じ年の子供を持つ身になりました。もし自分の子供がめぐみさんと同じ目にあつたらと想像してください。私たちがめぐみさんたち拉致被害者への関心を失ってしまったら、同じようなことが再び起こるかもしれません。だから絶対に事件を風化させてはいけないと思うのです。



「何故、私達皆が自分達の共同社会の出来事として、この人々の不在をもっと強く意識し続けることが出来なかったか…」最後のこの言葉がすごく心に響きました。拉致被害者を救うことができる唯一の方法は、国民皆が関心を持ち、声をあげ、絶対に許さないという強い思いを持つということです。この DVD を通して、少しでも関心をもってもらいたい。そして、一刻も早く、被害者の方が日本に帰れるように願っています。



日々、私たちの生活の中で、この拉致問題は忘れられていく傾向にあります。決して、その様な事の無いように一人一人が向き合っていくことが大切です。「自分には関係ない」という気持ちを持たない、持たせない為にも、拉致について知っておくことの重要性に気づきました。また、拉致問題を風化させない様、全世代の方にこの DVD を見て欲しい。



この作品を観て感じた事は、現在進行形で闘っている被害者の方々の苦悩と、無関心という事がどれだけ虚しい結果をもたらすのかという思いでした。一個人が国際問題を解決させる事は不可能であっても、多くの人々の働きかけによって解決させる事は出来ると思います。私自身もまずは関心に向け、少しでも協力ができればと、その為には自分だけじゃなく周りの人達にも関心に向けてもらえるよう働きかける事が重要だと思います。



わが子がある日突然いなくなる、そんなことはまさか、と想像できません。拉致され、連れ去られた方々がいることは日本で起きた事実です。政府に拉致被害者と認定された17名のうち、2002年に帰国できたのはわずか5名。横田めぐみさんのご家族は34年間、めぐみさんの帰宅を待ち続けています。北朝鮮による拉致問題はまだ解決していません。この問題をもっと身近に想い、解決に向けて想いを持ち続けなければならないと思いました。